

令和7年度 第1回さいたま市がん対策推進協議会 議事概要

◎ 日時

令和7年7月24日（木） 15時00分～16時30分

◎ 場所

さいたま市役所 議会棟2階 第6委員会室

◎ 出席者

《委員》影山委員（会長）、金子委員、北川委員、清田委員、
谷崎委員、新泉委員、馬場委員、山口委員、
力山委員、渡邊委員（五十音順）

《事務局》齋藤保健部長、浅野保健部参事兼保健衛生総務課長 他

《傍聴人》0人

◎ 欠席者

小川委員、桐澤委員、小山委員、澤登委員、長谷部委員

◎ 会議資料

① 次第

- ② **資料1-1** がん対策推進計画の進行管理スケジュール
- ③ **資料1-2** 第2次さいたま市がん対策推進計画・進行管理概要
- ④ **資料1-3** 第2次さいたま市がん対策推進計画・目標値に対する実績値の推移
- ⑤ **資料1-4** さいたま市がん対策推進協議会取組報告書【令和6年度】
- ⑥ **資料1-5** さいたま市がん対策推進協議会取組報告書【令和7年度】
- ⑦ **資料1-6** 75歳未満のがんの年齢調整死亡率（人口10万対）の推移について
- ⑧ **資料2** さいたま市がん患者アピアランスケア支援補助金交付事業について
- ⑨ **資料3** 令和6年度がん対策推進講演会の実施報告

1 開会

2 議事

(1) 第2次さいたま市がん対策推進計画の進行管理について

事務局より資料に基づき説明。

《資料》

- ・資料1-1 がん対策推進計画の進行管理スケジュール
- ・資料1-2 第2次さいたま市がん対策推進計画・進行管理概要
- ・資料1-3 第2次さいたま市がん対策推進計画・目標値に対する実績値の推移
- ・資料1-4 さいたま市がん対策推進協議会取組報告書【令和6年度】
- ・資料1-5 さいたま市がん対策推進協議会取組報告書【令和7年度】
- ・資料1-6 75歳未満のがんの年齢調整死亡率（人口10万対）の推移について

<御意見・質疑>

会長

最初に、各委員が所属している団体での令和6年度に取り組んだ成果と、令和7年度に予定している事業のご説明をいただきたい。

北川委員

さいたま労働基準監督署では、これまでと同様、がんを含めた様々な病気の治療と就業の両立支援対策及び職場における受動喫煙防止対策の普及促進を図るために、各ガイドラインやマニュアル、相談窓口の周知啓発に取り組んでいる。具体的には、毎年10月の労働衛生週間と9月の準備月間に、事業主、人事労務担当者、産業保健担当者に集団指導や説明会の開催している。令和7年度も引き続き実施予定である。

清田委員

さいたま赤十字病院では、令和6年度に両立支援促進員による相談会を新たに追加し、総数で481件のがんと就労の両立に関する相談を受けた。今年度も引き続き行う予定である。

また、アピアランスケア・ピアサポートやがん診療連携セミナーについては参加人数があまり多くないため、周知方法等検討していきたい。

馬場委員

さいたま市立病院では、令和6年度の継続事業である社会保険労務士による就労相談の件数が3件と少ないため、広報の仕方を改善していきたいと考えている。同じく継続事業のがん治療前の医科歯科連携の実績は200件だが、連携を促進し実績を伸ばすために、現在対策を立てている。また、新規事業であるAYA世代がん患者の多職種カンファレンスは4回実施した。

令和7年度は、新たに高齢者機能評価及び小児・AYA世代がん患者の終末期医療に関する研修会を予定。また、閉鎖をしていた緩和ケア病棟を再開し、円滑な運用と地域連携を行っていく。

力山委員

自治医科大学附属さいたま医療センターでは、禁煙外来の担当医師が不在にしており休止している。また、がん化学療法看護認定看護師の受験者について、令和6年度の希望者はいなかった。その他は概ね例年通り、継続して事業を行っていく。

金子委員

さいたま市歯科医師会では、主に口腔がん検診の受診率向上に力を入れている。令和7年度は、がん検診の質の向上を目指し、がん診療連携拠点病院の口腔外科や医師会主催の口腔がん検診に関する研修会を実施する予定。

新泉委員

埼玉県訪問看護ステーション協会では、緩和ケアやACPに関する研修の周知や紹介について、他機関からの案内と重複してしまい、効果が薄れてしまったため、廃止する予定。その他の事業は継続し、引き続きこれからを担う若い世代への在宅医療の推進に努めていく。

会長

第2次さいたま市がん対策推進計画で重点的な取組とされている「若年がん患者への支援」について、普段から学生と関わりのある渡邊委員に、若い世代へ向けたアプローチの方法等ご意見をいただきたい。

渡邊委員

現場の先生方の声を集めてみた。小中高それぞれの学習指導要領が新しくなった今、短い時間ではあるが、がん教育についての授業を行っている。教科書が分かりやすく、子供たちはがんについて理解している。その中で苦勞

しているのが、身近な方でがん患者がいた場合の配慮の仕方と、どのようにしたら自分事として捉えてもらえるかということである。具体的には、授業参観で親と一緒に学んだり、夏休みの自由研究の題材にしたりし、工夫を凝らしている。

会長

家族と学びあう機会は少ないと感じている。ぜひ夏休みの機会等を使ってほしい。

「若年がん患者への支援」と同様に、重点的な取組とされている「高齢のがん患者への支援」についても審議していきたい。令和7年度にさいたま市立病院で新規取組として行う高齢者機能評価について、馬場委員からご説明いただきたい。

馬場委員

65歳以上のがん患者の初診時に高齢者機能評価を行う目標だったが、外来業務中に行うのが難しいため、入院時に行っているというのが現状である。手術前のカンファレンスに間に合っていないが、問題がありそうな項目に関してはカルテに記載し共有している。きちんとしたスコアリングを外来で行えるよう対応していきたい。

新泉委員

具体的にはどのような項目があるのか。

馬場委員

食欲の有無、体重の変化、歩行状態、BMI、精神状況、服用している薬剤の数、年齢や、同年代と比べて自分自身の健康状態をどう思っているか等がある。

会長

現場で高齢のがん患者の支援を行っている新泉委員のご意見はいかがか。

新泉委員

高齢のがん患者の年齢層は年々上がってきており、介護する方も高齢であることが多い。訪問介護や訪問看護を入れて支援をするが、全ての時間をカバーできるわけではないので、ご家族の支援が必要不可欠である。がん患者本人だけではなく、そのご家族もどう支えていくかというのが大きな課題だと考えている。

会長

老々介護になってきているのが現状であり、24時間支援をするわけにはいかないため、周囲の環境を整える必要がある。

市民の立場から、山口委員はいかがか。

山口委員

自身は4年前、食道がんの疑いがあるとして、初診の病院の紹介を受けて高度医療の病院で再度検査をした。そこで食道がんの診断を受けたが、初期だったため、内視鏡手術で綺麗に取れた。当時、自身の病院の医療の限界を認め、すぐに別の病院を紹介してくれた事にとっても感激した。

また、自身はかつて喫煙者であり、何度も禁煙をしようと試みたが全て失敗していた。しかし、「止められたらいいな」程度の気持ちになった途端に止めることができた。何事もあまり力まない方が続けられるのではないかと思った。

(2) 令和6年度がん患者アピアランスケア補助金交付事業の報告について

事務局より資料に基づき説明

《資料》

- ・ **資料2** さいたま市がん患者アピアランスケア支援補助金交付事業について

会長：

間違いなく役に立っているが、まだまだ支援が必要な部分があるということが、アンケート集計結果を見て把握できた。

(3) 令和6年度がん対策推進講演会の報告について

事務局より資料に基づき説明

《資料》

- ・ **資料3** 令和6年度がん対策推進講演会の実施報告

会長：

講演会の講師をやっている身として、アンケート集計結果は大変参考になった。可能であれば、今年度行う講演会に参加したい。

3 その他

4 閉 会